

# 旅の喜び知つて

## 障害や年齢 気にせずツアーアー

太宰府天満宮の参道を歩く参加者  
ボランティア福岡県太宰府市で



障害の有無や年齢、性別を問わないユニバーサルデザインの理念を掲げる旅行会社が県内で初めて設立された。社員は社長以下3人だが、看護師やホームヘルパーの資格を持つボランティアが随行。リフト式の貸し切りバスを使い、組み立て式の洋式トイレや血圧計も携行する安心感が特徴だ。6日、福岡県太宰府市の太宰府天満宮を目的地にした初の日帰りツアーに同行し、快適さを体験してみた。

(中島健)

この会社は、熊本市飛田3丁目の「旅のよろこび」。勤めていた旅行会社が解散した後、別の仕事をしていた宮川和夫社長(43)が、06年11月、立ち上げた。特別顧問に医療法人の理事長が就くなど、医療や障害者施設の専門家から助言を受けている。障害者や高齢者にとって、旅行は高いハードルだ。トイレの心配があり、観光地を次々と巡るツアーワークはない。宮川社長は、参

3丁目の「旅のよろこび」。勤めていた旅行会社が解散した後、別の仕事をしていた宮川和夫社長(43)が、06年11月、立ち上げた。特別顧問に医療法人の理事長が就くなど、医療や障害者施設の専門家から助言を受けている。障害者や高齢者にとって、旅行は高いハードルだ。トイレの心配があり、観光地を次々と巡るツアーワークはない。宮川社長は、参

加者の希望や症状を事前に聞き取り、たくさんの場所は回れないが、ゆったりした日程を練るよう心がけた。この日のツアーは、代金8800円。小学生から80代のお年寄りまで27人が参加し、車いすや松葉づえの人もいた。リフト式貸し切りバスは県内に数台しかなく、借りた1台も車いすのまま乗車できるのは最大3人まで。他の人は、6人のボランティアや家族に支えられて座席に腰掛けた。

出発は20分遅れだったが焦りはない。休憩は約1時間後の予定だったが、宮川社長は「トイレ休憩はいつでも言ってください」と声をかけた。実際、食事に時間がかかる人や障害者用トイレの数が少ないことを考慮し、九州道のインターチ

エンジでの休憩時間は長めにとらっていた。昼夜に天満宮に到着したが、雨模様。車いすの参加者はカッパを着込んで、人がふれる参道を進んだ。「あの店はなんで並んでいるの」「あそこの梅が枝餅がおいしいらしい」。ボランティアらと話を弾ませ、参拝と記念写真の撮影を終えると自由行動。一緒ににおみくじを引いたり、おみやげを貰つたり、思い思に過ごした。帰りのバスの中では、ボランティアがマジックやゲームで車内を盛り上げ、手作りの素朴さが印象に残った。

## ユニバーサルデザインの会社誕生

参加者 「

**ゆつたりの日程で安心**

この会社は、熊本市飛田3丁目の「旅のよろこび」。勤めていた旅行会社が解散した後、別の仕事をしていた宮川和夫社長(43)が、06年11月、立ち上げた。特別顧問に医療法人の理事長が就くなど、医療や障害者施設の専門家から助言を受けている。障害者や高齢者にとって、旅行は高いハードルだ。トイレの心配があり、観光地を次々と巡るツアーワークはない。宮川社長は、参

加者の希望や症状を事前に聞き取り、たくさんの場所は回れないが、ゆったりした日程を練るよう心がけた。この日のツアーは、代金8800円。小学生から80代のお年寄りまで27人が参加し、車いすや松葉づえの人もいた。リフト式貸し切りバスは県内に数台しかなく、借りた1台も車いすのまま乗車できるのは最大3人まで。他の人は、6人のボランティアや家族に支えられて座席に腰掛けた。

出発は20分遅れだったが焦りはない。休憩は約1時間後の予定だったが、宮川社長は「トイレ休憩はいつでも言ってください」と声をかけた。実際、食事に時間がかかる人や障害者用トイレの数が少ないことを考慮し、九州道のインターチ

エンジでの休憩時間は長めにとらっていた。参加して、大丈夫という自信がついた

会社の授産施設に入所している40代の女性は「他の旅行では、時間が気になり落ち着かない。親しい友人でも介助を任せるのは不安だからツアーは心休まる」と満足の様子。熊本市京町1丁目の山中誠子さん(76)は、「見守ってくれることが分かるので安心できる」と話した。

同社では、海外を含む宿泊ツアーも予定し、ボランティア付きの個人旅行の相談にも応じる。宮川さんは「どんな障害があっても、旅行したい人の願いをかなえていた。誰にでも旅の樂しみを味わってもらう旅行を企画していく」と話す。

参加者はどう感じたのか。電動車いすを使う熊本市の猪俣敦さん(44)は、自分で京都や奈良への旅行をしたが、介助者が必要な

45・0811まで。

分、費用がかかつっていた。

「参加して、大丈夫という自信がついた」

会社の授産施設に入所している40代の女性は「他の旅行では、時間が気になり落ち着かない。親しい友人でも介助を任せるのは不安だからツアーは心休まる」と満足の様子。熊本市京町1丁目の山中誠子さん(76)は、「見守ってくれることが分かるので安心できる」と話した。

同社では、海外を含む宿泊ツアーも予定し、ボランティア付きの個人旅行の相談にも応じる。宮川さんは「どんな障害があっても、旅行したい人の願いをかなえていた。誰にでも旅の樂しみを味わってもらう旅行を企画していく」と話す。

参加者はどう感じたのか。電動車いすを使う熊本市の猪俣敦さん(44)は、自分で京都や奈良への旅行をしたが、介助者が必要な

45・0811まで。